

# 令和5年度 市民意見交換会（経済建設常任委員会）

《令和6年2月1日（木）》

意見交換の相手団体：たつの市集落営農連絡協議会

意見交換会のテーマ：たつの市の農業の現状と課題について

## 主な意見（一部抜粋）

・集落営農連絡協議会では、平成19年の設立後、市内の各集落営農と連携し、新しい知識を生み出し、お互いに研鑽し、集落営農としての力を上げようと頑張っている。

・2024年に、25年ぶりに食料農業農村基本法が改正される。現在、農業が抱えている高齢化、担い手問題、法人を支援するための施策など新しい基本法のなかに組み込まれると言われており、今後の農業が大きく変わっていく重要なタイミングである。市議会議員としても、特に関心をもち、勉強会なども農業に特化して取り組んでいる。

・高齢化が進んで、労働力の減少が著しい。集落営農でも70代以上が多く、40代・50代はほぼいない状態である。個々の農家の労働力、担い手不足など、議会ではどこの窓口に相談すればいいのか。

・生産者とのマッチング事業においても、米や野菜の産地の規模に比べ、マッチング事業の相手が大きいため、マッチングが成立しにくい現状がある。産地化を進めるなら、量の確保と、作ったものをきちんと集荷できる集荷場、集荷したものを保管できる乾燥場や保冷庫、また一次加工できる場所とかがないと、野菜などの産地化は難しい。そういったものがあれば、もっと広がっていくのではないかと思う。

・有機栽培や特別栽培など、循環型農業はいろんなところで取り組んでいる。米で取り組んでいくにしても、普通のお米と違うというPRをして、少しでも高く買ってもらうことや、SDGsを踏まえて取り組んでいくことが必要である。

・最低賃金は上がって負担は増えるが、それを価格になかなか転嫁できず、収益性を上げることが難しい。

・高齢化により、管理を依頼されることが増えているが、何年も耕作していない遊休地には、交付金が出ないため、手を出せず困っている。



・猪や鹿の被害が多く困っていたが、今年、予算がついて防護柵を設置することができ感謝している（2集落営農）。

・原営農組合では、作ったお米を全部直売するよう取り組んでおり、最初はポストイングなどPRに苦労したが、今は固定客がついて、作ったものは残らず販売できている。

・集落営農において、女性の方は男性よりも元気な方が多く、摘み取りなど女性のほうが上手な場合も多いので、女性がもっと参加できるような仕組みづくりも必要だと思う。

・日本国内では、水田は食料自給率を満たしていると言われていたこともあり、今、畑地化推進をしている。ただ、集落営農の皆さんが言われるように、担い手がいないのが現状で、これは、やはりお金を出さなければ生活ができず、担い手は出てこない。農業所得を上げること、それで規模を拡大して、どれぐらいで損益分岐点になるかを考えて運営して、従業員にも社長にも給料がちゃんとできるようにできれば人材も増えると思う。

・国・県・市が力を合わせて農業を守り、育てていく。そのために知恵を出し合い協力していくことが大事だと思う。